



絶望

全作品と講評  
[www.columnland.net](http://www.columnland.net)

ア  
ン  
タ  
ガ  
ズ  
ク  
兼  
ナ  
ク

ア  
ン  
タ  
ガ  
ズ  
ク  
兼  
ナ  
ク

2012年があと二週間・・・

# 絶望

したあああああ

ああああああああああ

ああああああああああ

ああああああああああ

ああああああああああ

入学したのが昨日のようですね・・・

はははははははははは・・・

ただしイケメンに限る

「……っ！！んん……」

風の吹き込む気配もない、閉ざされた部屋の中。

（どうしてこんなところで縛り付けられてるのっ……）

「ご丁寧に声が出せないように猿轡を噛まれた上に、両手両足を椅子に拘束されている。その拘束具をガチャガチャと鳴り響かせながら、どうにかしてこの椅子から離れないかと思える。しかし、どうやら非常に頑丈な作りになっているようで、外すことはもちろん、壊すこともできなさそうな様子だ。」

「あら、元氣そうね」

突然耳元に声をかけられ、驚きのあまり飛び跳ねそうになる。しかし、その行動すらも拘束具に阻まれてしまう。いつのまに現れたのか、正面には不気味な笑顔を湛えた女性の姿があった。その笑顔を崩さないまま、猿轡を外すと再び耳元に口を近づける。

「私の家へ、ようこそ」

\*

「何が『私の家』なのよっ、どうしてあたしがこんなところにいるわけっ！」

目の前の女性に対し、疑問を次々と口にだす。

「そもそも、あたしはあなたのこと知ら……っ」

言葉を出し切る前に、ピシッという頭まで響いてくるかのような音が全身を駆け回る。それに続いて、思い出したかのように左腕に鈍痛が起こり

始めた。

「あら、初対面の人に対して口の開き方がなっていないようね」

見ると、女性の右手から地面へと、一本の鞭が垂れ下がっている。そしてようやくその鞭で自分が打たれたことに気づいた。

「なっ……なんなのっ……」

声を絞り出すのが、恐怖に彩られたような、震え切った声しか出すことができない。

「さっき言ったことが理解できてないのかしら……初対面の人に対しては？」

女性はナイフを取り出すと、

胸元を横切るようにナイフを滑らせた。洋服が地面へと落ちる音を聞いて、思わず

ひっ、と口に出してしまう。

「きれいなお肌じゃない」

露わになった胸元に、女性が指を這わせていく。普段他人に触られることのない、敏感とも言える場所から、思わず背筋が凍ってしまうような冷たさを感じる。

「こんなにきれいだと……」

傷つけがいがあんなにない

そう言うと、素肌に向かっ

て鞭を振り下ろす。呼吸が止まる程の衝撃に咳き込んでしまう。見ると、胸元に一本の赤い直線が走っている。

「ふふ……痛いでしょう」

その直線に沿って、女性が舌を這わせていく。そこから感じる得体の知れない感触に、全身に鳥肌が立ってしまう。

それを見て、女性はその上をめぐり、さらに鞭を振り下ろす。パシッ、パシッという音が入屋に鳴り響くたびに、涙が出る程の痛みが走る。

「い、いたっ……！助けっ……！」

「残念だけど、ここで叫んでも誰も助けなんて来ないわよ」

ふふ、と笑いながら女性が言った。涙にまみれた顔で部屋中を見渡してみるのが、脱出できるような所は、女性の後ろにあるドアしか見つけることができない。

「その絶望した表情、素敵」

何度も、何度も鞭が振り下ろされる。助けを望むこともできない絶望の中、逃れることもできず、ただただ女性の鞭を甘受するしかなかったのだ。

\*

永遠とも、一瞬ともとれる時間が経過した後。

椅子の上に乗る、ほぼ生まれたままの当然の少女の肌には、無数の真紅の痣が刻み込まれている。椅子の下にある涙とも汗ともれない液体の中に足を踏み入れ、女性は少女の耳元へとかかりかける。

「今日はおつかれ。……また明日、よろしくね。わたしのおもちゃさん」

絶望に包まれた思考の中にいる少女に、その言葉が届くことはなかった。

「絶望」

解けると、春が来るんだね……

ゆきだるまの絶望

解けたら、春が来るんだね！

受験生の希望

(あくあ、正社員なれねえし給料低いし顔もブサイクだしおまけに背も低いし、こりゃ未来に絶望するしかねーや……)

「そんなあなたに希望を授けてさしあげましょう。」

「……誰だ……?」

「ふふふ、わたしは通りすがりの——ですわよ、あなたに希望を授けたいのです」

「え、通りすがりの何だって?」

「そんなことは今はどうでもいいのです。あなたは今何が欲しいですか、あるいはどうなりたいですか?」

「……正社員になってもっといい家に住みたい」

「分かりました、あなたは正直ですわね、そのためのわずかな希望を授けましょう」  
そう言うと、目の前の、黒いローブを着た何かは角を曲がって消えていった。

\*

\*

次の日、いつものようにバイトに行つて、いつものように疲れて帰ってポストを見ると、なんと求人広告が入っている。男はその時まですっかり昨日の奇妙な体験のことを忘れていたが、黒ローブのものを思い出して、もしかやこれは本当に黒ローブが希望をくれたのではないかと、思つて、応募してみた。

するとどうだろう、毎回応募するたびに書類選考で落とされていたのに書類選考を通過したではないか。さらにそのまま試験、面接と進んでいきなんと人生初の正社員になることが内定した。小さな会社だったが、男はとてもそのことを喜んだ。

\*

\*

数日後、初めての出社の日に会社に行つてみると、事務所があるはずの部屋は空き部屋になっていて、ただドアに「解散」と書いた紙が貼つてあるのみであった。

「どうやら、男は一度も務めることなく、再び職を失つてしまったようだった。」

\*

\*

(絶望した……、何が希望だ、この世に希望なんてあったもんじゃない。最初から希望なんてなかったけど。そーいやどっかで聞いた言葉に「絶望とは、最初から望みのないことではない、最後の希望が潰えたとき、それを絶望というのだ」なんてのがあったな、まさにその通りだよ、くそっ、これが絶望かよっ、絶望した。絶望した絶望した絶望した絶望した……くそっ、……もういいや、こんなに無価値な人生なら、いっそ……) 男の体はどうしたとか、徐々に線路の方へ、吸い寄せられていき……

\*

\*

(午前9時18分ごろ、越谷で発生した人身事故の影響で、東武スカイツリーラインは現在、運転を見合わせております。なお、振替輸送を……)

「ふっ、今回もうまくいってよかったわ、でももう次の仕事にかからないと……」  
運転見合わせのアナウンスを聞きながら、黒ローブは確かにそう言つて、微笑に笑つた……ような気がしたのだった。

ぜんりよくをつくしたのに  
つらいことにもたえたのに  
ぼくはあいつにかたなくて  
うしろすがたをおうばかり  
のびなくておちこんでたら  
ちかくにきみがあらわれて  
きみはぼくのらいはるだと  
ぼくにいつてくれたことが  
うれしくてないてしまった

絶望するのは 簡単だ

明日に希望を 抱けばいい

裏切られるのは すぐだから

絶望の色は 美しい

とても孤独な 漆黒の色

すべてを飲み込む 闇の色

絶望の種は そこにある

柱の影にも タンスの角にも

ポケットの中にも 潜んでる

それでも 僕は生きていく

だって

世界は こんなにも素晴らしいのだから

『とあるテストの  
答案用紙  
ホワイトシート(泣)』

…ん？…なぜに机の上？…

昨日は…！！

今何時だ！？…

うああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああ

もし

絶望したら

布団をかぶって

枕に顔をうずめて

あーって叫びたい

試験が駄目でも

字を間違えても

平地で転んでも

寝れば忘れるもんさ

そんなちっぽけな

失敗だけで

きみの望みが

絶えるもんか

ていんいっしん



		す。おめでとう!!! 特別賞：横読み賞 from Y班（7行目を左から読むと「いくらがちをにもつ」になるから） イチオシフレーズ：「ぜつぼうのちきぼう」
08	無題（絶望するのは簡単だ）	1 pt   9位   0 sp 絶望という抽象的なものに「色」や「種」といったカタチを付けたところがナイス工夫。 おかげでテーマがくっきり見えてきます。
09	とあるテストの答案用紙	0 pt   10位   1 sp このレイアウト、元ネタありなんだそうな。なるほど、それをやってみたかったですね。了解。 特別賞：名前書きま賞 from T班（名前くらい書け） イチオシフレーズ：「とあるテストの答案用紙」
10	無題（なぜに机の上?）	2 pt   7位   1 sp 絶望の叫びのインパクト炸裂。ツイッター上の実況中継のような。 ただ学生でないと状況が分かりにくいのが難か。 特別賞：うああああああああ賞 from V班（テンション↑だね）
11	無題（布団をかぶって）	2 pt   7位   1 sp レイアウトがしっかり布団気分なところが、ほほえましい。よしよしたくなる、かわいらしさでした。 特別賞：オフトウン賞 from X班（布団に見える……?） イチオシフレーズ：「あーっ」
12	ていくいっといいいい	15 pt   1位   0 sp フォントの勝利ですね。ユニークな文字を使うだけで、フレーズはそんなにユニークでなくても、しっかり心に刺さってくる。 あつたかテストで今週の読み納め、みごとゴールド・メダルに輝きました。おめでとう!!! イチオシフレーズ：「ていくいっといいいい」×2